

ベースボールカフェ



Baseball cafe
NO.6

2019年6月5日
三好ベースボールアカデミー
三好泰宏

TEL・FAX 011-897-3535

携帯 090-59892587

E-mail: my.baseball.1977@jcom.zaq.ne.jp

ご挨拶

北海道の高校野球は春季大会が終わりました。お約束の観戦記は、「ぎっくり腰」が再発して円山球場へは足を運ぶことができませんでした。予定を変えて、「春季大会の不思議物語」でご勘弁をいただきます。

春のチャンピオンは夏勝てない

このようなジンクスがありますが、なるほどと思うことは、これまで夏の大会に優勝して甲子園に駒を進めた学校が5校しかないことです。

北海⑥、東海大四③、駒大苫小牧③、駒大岩見沢①、帯広北①の5校です。

悔しい思いをした学校は、北照4回、苫小牧工業3回、函館有斗3回、室蘭大谷3回、道工2回でしょう。夏は涙を吞みました。

結論は、ジンクスは生きている。と言うことでよろしいようです。

参考までに、駒大苫小牧6割、東海大四3割について掲載しました。北海は5.5割となります。

	<春季優勝校>	<甲子園出場校>
平成16年	駒大苫小牧	駒大苫小牧
18年	駒大苫小牧	駒大苫小牧
19年	駒大苫小牧	駒大苫小牧
25年	駒大苫小牧	北照
29年	駒大苫小牧	北海
令和元年	駒大苫小牧	?

ちなみに、東海大四は9回優勝していますが

昭和51年	東海大四	東海大四 (私)
53年	東海大四	東海大四 (私)
56年	東海大四	有斗 (私)



60年	東海大四	有斗 (佐々木)
平成5年	東海大四	東海大四 (〃)
6年	東海大四	北海 (〃)
7年	東海大四	道工 (〃)
10年	東海大四	駒大岩見沢 (大脇)
20年	東海大四	北海 (〃)

そこで、一回ですが涙を吞んだ学校です。

	<春季優勝校>	<甲子園出場校>
昭和41年	赤平西	帯広三条
44年	北見柏陽	帯広三条
45年	旭川東	北見柏陽
50年	札幌商業	道日大
54年	旭川竜谷	釧路工業
61年	函工	東海大四
62年	帯広大谷	滝川西
平成元年	稚内大谷	帯広北
3年	道桜丘	北照
21年	立命館慶祥	札幌第一
28年	札幌大谷	北海
30年	札幌第一	北照

夏勝つためには

それは投手にあると思います。少年野球からプロ野球までチームを背負っているのは投手です。特にエースは自覚を持ってコンディションを整えて試合に臨まなければなりません。

私は春3回優勝して一回負けたのは、エースが不注意で中指の爪を割りました。これには、監督の指導責任もありますが…

エースの出来不出来は、打線、守備に影響します。打線が爆発するのは、エースがしっかり投げて、野手もしっかり守っての上にあるものです。

このたびの決勝戦では、エースの見事なピッチングに打線が応えました。奪三振12は素晴らしいですが、私の注目は無四死球です。無四死球ピッチングで負けたことがないからです。

準優勝の苫小牧工業は強力打線でしたが、投手の不調で発揮できなかったようです。

6月の後半には夏の大会が始まります。悔いの残らない試合にするためには、エースは汗と涙の猛練習をしなければなりません。打撃陣もエースの力投に応える打力を付けなければなりません。これが必勝の大条件です。

(写真は、駒大のエースと苫工四番打者)